えみちゃんレポート No5

茨城県議会　一般質問特集12月号

茨城県議会議員 設楽詠美子（しだらえみこ）　住所　筑西市二木成994　電話・FAX　24-9119

メリークリスマス！！
イエス・キリストが生まれて、2011年もたつのですね。時間の流れは、不思議です。今年の12月は、はじめての一般質問を行いました。
地域のみなさまの声をもとに、そして感謝の気持ちを胸に６つの項目の質問を行いました。

1　東日本大震災に対する対応について
（1）子どもたちや妊産婦の放射性物質に関する健康調査の実施（知事）
（2）文化財の災害復旧に向けた支援（教育長）

2　仕事と出産・子育ての両立できる就労環境つくりについて（知事）

3　茨城県の保健医療政策について（保健福祉部長）
（1）心筋梗塞による死亡率の減少に向けた取り組み
（2）歯と口腔の健康づくり対策の強化
（3）母乳育児の推進

4　命の教育について（教育長）

5　農業の６次産業化と異業種との連携の推進について（農林水産部長）

6　筑西幹線道路の整備について（土木部長）

農林水産委員会の委員として

農業に関して１年間、勉強しながら地域のみなさまの声を聴かせていただき働いてまいりました。農業者の皆様のためだけでなく、**私たちの健康を作るためにも日本の農業は重要です。**農業の６次産業化及び異業種との連携、そして販路の拡大をしなくてはと強く感じております。
今回の災害により風評被害など大きなダメージを受けました。元気な茨城農業を取り戻すためには、農産物の加工施設も必要です。
さらに、医療機関や福祉施設などの異業種との連携も重要です。**「茨城６次産業化サポートセンター」**や**「６次産業化プランナー」**の設置、また、関連事業も整備されつつあります。
私は、これからも農業者のみなさまを応援してまいります！！

1　東日本大震災に対する対応について

（1）子どもたちや妊産婦の放射性物質に関する健康調査の実施

多くの子どもを持つ母親や妊産婦の方々から、子どもたちの健康被害やお腹の赤ちゃんが大丈夫かとの不安の声が寄せられました。福島県では、調査を実施し、宮城県、岩手県でも県独自に調査を実施、又は実施する考えを表明しています。本県では複数の専門家からの意見をふまえ実施の必要がないとの考えですが、**子どもを持つ母親や妊産婦の不安の払拭、風評被害を払拭のためにも、本県も健康調査を実施すべき**と考えます！

《知　事》
福島県の放射能高度汚染地域の皆様の内部被ばく調査の結果は、極めて低い被ばく量でした。本県は、福島県より空間中の放射線量がかなり低いこと、専門家の意見を踏まえ検診の必要はないと考えています。県民の不安解消には、放射性物質の測定や分かりやすい説明会等で対応します。

（2）文化財の災害復旧に向けた支援

今回の震災で本県は、**国指定等文化財が全国で最も多い182件、県指定文化財が81件、そして市町村指定文化財が202件の被害**を被っています。

筑西市では、国登録文化財の荒川家住宅をはじめ、鎌倉時代に造られた石造五輪塔や、陶芸家板谷波山の生家などの県指定文化財が被害、さらに市指定文化財である雷神社は、拝殿、幣殿、本殿、ともに被害を受け、神社を支える土台も崩れ落ちるなど、大きな被害を受けております。
文化財は、地域の皆様の心の拠り所であり、共有すべき「財産」です。**被害の大きさに関係なく、市町村指定文化財を含めて復興支援を行うよう**ご配慮を頂きたいと考えます。

《教育長》
国指定・登録文化財と県指定文化財は、復興基金を活用して**「文化財等災害復旧補助事業」**で、**3/4の補助**を行います。
市指定文化財は、県より分配予定の**「市町村復興まちづくり支援事業」**を活用して文化財の復旧に活用していただきたいと考えています。

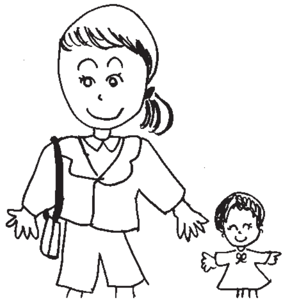
★ 筑西市は、すべての**文化財に修復の85%を補助する**ことを決めました。

2　仕事と出産・子育ての両立できる就労環境づくりについて

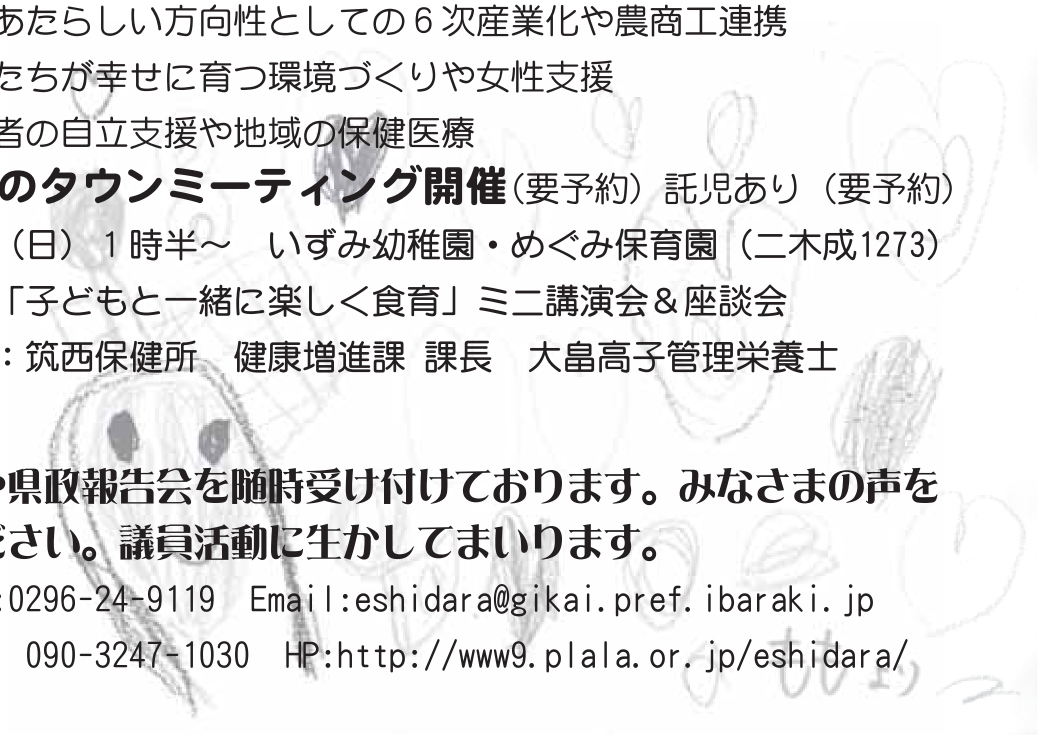
わが国の合計特殊出生率は1.39と大変低く、国民皆保健や年金など社会保障制度の崩壊は明らかです。少子化がすすむ原因としては、女性は仕事か結婚の選択に迫られること、男性は収入が低いということなどから、結婚しない男女が増えていることが　わかっています。女性は結婚を機に６割が離職し、その後１年未満で再就職できるのは１割に過ぎず、再就職の多くが非正規雇用という現状です。**女性が仕事と出産・子育てが両立できる就労環境づくりが大切と考えます。**

《知　事》

少子化と人口減少が進む中、仕事と出産・子育てを両立させる**環境づくり**は女性の社会参画と労働力確保の点でも重要と考えます。**県は事業所内の保育所や託児所の整備に補助を行っています。また、「子育てママ再就職支援事業」**により雇用の創出に力を入れています。企業に対しては、女性就労・再就職に取り組む**環境づくり**の推進を促して参ります。



年末・来年１・２月と多くの現場に出かけますので
皆様の声をお聞かせください。



①農家のあたらしい方向性としての６次産業化や農商工連携
②子どもたちが幸せに育つ環境づくりや女性支援
③障がい者の自立支援や地域の保健医療

●女性限定のタウンミーティング開催（要予約）託児あり（要予約）
２月５日（日）１時半～　いずみ幼稚園・めぐみ保育園（二木成1273）
テーマ：「子どもと一緒に楽しく食育」ミニ講演会＆座談会
講師：筑西保健所　健康増進課 課長　大島高子管理栄養士

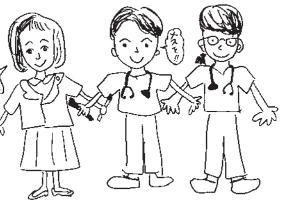
意見交換会や県政報告会を随時受け付けております。みなさまの声を聴かせてください。議員活動に生かしてまいります。

Tel＆Fax:0296-24-9119　Email:eshidara@gikai.pref.ibaraki.jp
携帯電話　090-3247-1030　HP:http://www9.plala.or.jp/eshidara/

♪えみちゃんレポートNo1～No4と議会の質問全文と答弁の全文をご希望の方はご連絡ください。

娘の桃が描いた絵です。

3　茨城県の保健医療政策について



（1）心筋梗塞による死亡率の減少に向けた取り組み

茨城県は国が策定した**「健康日本２１」に基づき**「健康いばらき２１」を策定し、治療のみならず疾病予防にも力を入れてきております。しかしながら、**生活習慣病の１つである心筋梗塞による死亡者が10万人当たり男性は40人（全国２位）、女性は18人（全国１位）といった現状**です。この死亡率は昭和50年代から全く改善されておりません。この原因として、患者を受け入れる救急医療体制の不備、健康診断の受診率の低さ、喫煙や塩分の取りすぎなど生活習慣などにも問題があると考えます。例えば、神奈川県では、条例で受動喫煙を防止するなどの積極的な取り組みをすすめています。**本県でも心筋梗塞に特化した総合的な対策が必要と考えます。**

《保健福祉部長》

心筋梗塞による循環器疾患の死亡率には生活習慣のほか、住環境、労働条件、医療資源などの要件が関係しております。高血圧、喫煙習慣、高血圧や脂質異常などが死亡率の高さと関係がる事が解っております。県は予防月間や「**脳卒中・心筋梗塞危険度予測シート**」を活用し生活習慣の改善を呼びかけております。
また救急搬送時の医療機関のリストにより受け入れ先の迅速化をはかっています。

★救急医療情報システム
お医者さんを探すことができます　029-241-4199（24時間対応）

この１年間を振り返って…

多くの皆様に出会い、地域の問題や課題を聴かせていただき、解決できるように働いてまいりました。県だけでなく、国や市にも地域の皆様の声を届けることもありました。
農家の皆様と原発による補償の問題を福島衆議院議員と連携し農林水産省に陳情に行き、原中医師会長と地域医療再生のための予算をいただけるよう厚生労働省に要望に出かけ、充実した政策となるようお願いしました。また、吉澤市長は説明をして必要であると理解してくださるといち早く対応してくだいました。
年の最後の12月は、私にとって深い想いを寄せる月です。市民病院の古谷先生がお亡くなりになり、大切な友人のお誕生日があり、そして議員に当選させていただいた月でもあります。
筑西市民マラソンでは、１年間の想いを胸に５kmを完走することができました。
これからも皆様とともに、歩んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

設楽詠美子